



Republic of  
Ghana  
02

# ワールド大作戦～世界を知ろう～ガーナ編

古都 匠子

米子市立弓ヶ浜小学校

●実践教科等/総合的な学習の時間  
●時間数/8時間

●対象学年/小学5年生  
●対象人数/93名



大人数を対象とした授業の中で、触れる、知る、つなげる、という3つの段階を踏んだ構成が素晴らしい。

## ❖カリキュラム

- 【実践の目的】
- ガーナを通して、異文化への興味・関心を高める。
  - 日本とガーナの共通点・相違点に気づき、お互いの国の良さを認め合う。
  - 世界で活躍する日本人について知り、生き方や国際協力について学ぶ。
  - ガーナの現状から、自分たちの生活を見つめ直す。
  - 同じ地球に住む仲間として、共に生きていこうとする態度を育てる。

## ❖授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
事前	ワールド探検隊、出発! 児童の実態を把握し、学習への意欲を高める	・アンケートをする ①アフリカやガーナのイメージ ②子ども意識調査 将来の夢 好きな教科 尊敬する人	・アンケート
1	ガーナってどんな国? ガーナの文化・生活に触れる	・ガーナクイズに挑戦する ・チュイ語の挨拶に親しむ ・ガーナ式の曜日の名前を書く ・食文化を知る	・パワーポイント ・写真・地図・国旗 ・お金・絵本 ・ワークシート①
2	ガーナの音楽・遊びを楽しもう ガーナの音楽・遊びに親しむ	・伝統的な音楽を聴く・楽器を演奏する ・遊びを楽しむ	・楽器・音楽・CD ・ビデオ・写真・絵本
3	のぞいてみよう!ガーナの学校・子どもたち 日本とガーナの共通点・相違点を見つける	・ガーナの小学校の様子を知る ・日本とガーナの子ども意識調査を比較する ・リンダ(11歳)の紹介をする	・パワーポイント ・写真 ・ワークシート② (P22参照)
4	ガーナで活躍する日本人 ガーナで活躍する人の生き方や国際協力について学ぶ	・野口英世の功績・座右の銘を通して、英世の生き方について考える ・フォトランゲージ 青年海外協力隊員、JICAで働いておられる方について学ぶ	・パワーポイント ・写真・ビデオ ・世界の伝記「野口英世」 ・ワークシート③
5	ガーナから学ぼう ガーナの現状から自分たちの生活を見つめ直す	・ガーナの学校で使われている黒板、ノートに触れる ・ガーナ人の笑顔のひみつを探る ・自分たちの生活を見つめ直し、できることは何かを考える	・写真・黒板・ノート ・ワークシート④ (P22参照)
6 7	ガーナの子どもたちと友達になろう ガーナの小学生と文通をする	・ガーナの友達からの手紙を読み、内容を伝え合う ・返事を書く ・写真を撮る	・手紙
8	学習発表会 「ワールド大作戦」～世界を知ろう～	・学習したことを劇にして、保護者や地域の方に発信する	・楽器・写真 ・1から10までのカード ・衣装

田中 紀子  
報告書①

古都 匠子  
報告書②

村木 啓司  
報告書③

重森 美由姫  
報告書④

黒明 悠一郎  
報告書⑤

山崎 知代子  
報告書⑥

祝迫 直子  
報告書⑦

河毛 樹  
報告書⑧

森 泰三  
報告書⑨

安部 一実  
報告書⑩

参考資料

## ◆授業の詳細

### 1 時 限 目 ガーナってどんな国?

「メモア・ハー」「イエフレメ ショウコ アベナ フルイチ」チュイ語の挨拶と自己紹介から、ガーナとの出会いをスタートさせた。そして、ガーナの学習を進めていくが、私が見聞きしてきたことが、ガーナのすべてではないことを児童に伝えた。

まずは、パワーポイントで3択クイズを10問作り、ガーナの位置、首都、国旗、言語、通貨などの基本的な情報を学習した。そして、チュイ語の簡単な挨拶を練習した。その時に、ガーナ式の拍手や拳手も取り入れ、雰囲気盛り上げた。

次に、ガーナでは、生まれ曜日を大切にしているという習慣を学び、自分の生年月日から生まれ曜日を計算して出し、「コフィ」「アマ」など、ガーナ式の名前をワークシートに書いた。そして、ガーナの食文化について触れた。私が実際に食べたものを写真で紹介し、感想を聞きながら進めていった。また、児童も興味を持っていた「チョコレートのひみつ」について、原料であるカカオ豆、日本への輸出などについて学習した。

最後に「ぼくはまほうつかい」という絵本を紹介した。この絵本は、少年コフィが魔法を使ってガーナの国をとびまわるといってお話である。写真がたくさんあり、ガーナの文化や生活の様子がよく分かる絵本なので、学級文庫の隣に展示し、いつでも読めるようにしておいた。



チュイ語の挨拶覚えたかな?

#### 児童の感想より

ガーナの拍手は、リズムがあっておもしろいと思いました。

食べ物は、日本とすいぶん違うなと思いました。ぼくも食べてみたいです。

気温が40度になっても溶けないチョコレートがあるなんて、びっくりしました。

### 2 時 限 目 ガーナの音楽・遊びを楽しもう

児童の目を引くように、楽器やCDなどをボルガタンガバスケットに入れておいた。

まず、ジャンベなどの楽器を紹介した。簡単な演奏の仕方やリズムを教えた後、児童に演奏してもらった。そして、代表の児童3~4人でセッションするなど、ガーナの楽器の響きやリズムを楽しんだ。楽器に触れることができなかった児童のために、授業が終わった後

の休憩時間に、体験コーナーを設けた。次に、ガーナの伝統的な音楽のCDを聴いた。児童は、太鼓やベルの音色や複雑なリズムに興味津々で、体を揺らしたり、手で床を叩いてリズムをとったりしていた。

最後に、ビデオと写真を使って、靴おとし、足じゃんけん、石蹴りなどの遊びを紹介した。体育館で学習していたので、その後、足じゃんけんをして楽しく遊んだ。



みんなでセッションだ!

#### 児童の感想より

ユニークな形の楽器があって、音も不思議な感じでした。ガーナに行ってみたくくなりました。

ジャンベの音が特に気に入りました。叩くところによって、すいぶん音がちがっていて、びっくりしました。

ガーナにも日本と同じような遊びがあるなんて思いませんでした。

### 3 時 限 目 のぞいてみよう! ガーナの学校・子どもたち

初めに、「日本とガーナの同じところ・違うところを見つけよう」という目当てを伝えた後、パワーポイントで写真を見ながら、校舎、休憩時間、教科、時間割などを紹介した。次に、事前に行っていた子ども意識調査の結果から、小学5年生の考えを比較した。「好きな教科」「将来の夢」「尊敬する人」の3つについて、第5位までのランキングにして発表した。

最後に、ホームビジット先で出会った11歳のリンダという女の子を紹介した。インタビューした内容を整理して物語にし、写真を提示しながら児童に読み聞かせた。将来の夢、1日の生活、家族のことなど、リンダの目線から語りかけた。

(資料1)日本とガーナ 子どもの意識調査結果

#### Q1 好きな教科は?

	弓小の5年生	ガーナの5年生
第1位	体育	算数
第2位	算数	理科
第3位	理科	日本語
第4位	家庭科	英語
第5位	音楽	フランス語

## Q2 将来の夢は？

	弓小の5年生	ガーナの5年生
第1位	プロ野球選手	医者
第2位	保育士	プロサッカー選手
第3位	プロサッカー選手	ジャーナリスト
第4位	プロバスケット選手	看護師
第5位	サラリーマン	会計士

## Q3 尊敬する人は？

	弓小の5年生	ガーナの5年生
第1位	友達	神様
第2位	プロ野球選手	両親
第3位	両親	先生
第4位	プロサッカー選手	友達
第5位	家族のみんな	家族のみんな

### 児童の感想より

ガーナの子どもたちと比べて、違うところもたくさんあったけど、同じところもたくさんあって、おもしろかったです。

ガーナの小学生は、尊敬する人の第1位が「神様」でびっくりしました。

ぼくは、プロサッカー選手になりたいけど、ガーナの子どもも同じような夢を持っていることが分かりました。

ガーナでは、家族とか、人とのつながりが強いんだなと思いました。

## 4 時 限 目 ガーナで活躍する日本人

まずは千円札を提示し、児童の興味を引きつけた。野口英世について尋ねると、詳しく知っている児童もあったが、晩年にガーナで活躍したことについては、ほとんどの児童が知らなかった。

英世の生涯をたどった後、アクラの野口英世記念館に展示してあった座右の銘をクイズにして考えた。「忍耐」という言葉から、英世が日本から遠く離れた国で、どんな思いで研究を続けていたかということ想像して発表した。そして、自分だったらどんな言葉を選ぶのか考えた。「勇気」「挑戦」など、その言葉を選んだ理由もあわせて考えてワークシートに書いた。また、国語で伝記に親しむ学習をしていたので、野口英世の伝記も紹介した。

次に、「JICAで働いておられる石川さん」「マッシュルームハウス」「シアバター作り」の3枚の写真から、フォトランゲージの手法を使って学習した。児童は想像力をはたらかせて、自由にお話を作っていた。正解を言うと、「すごい！」との歓声があがった。同じ鳥取県出身の方が、遠く離れたガーナで、シアバターの生産や流通などの仕事に携わっておられることを知り、感銘を受けていた。

最後に、青年海外協力隊員について紹介した後、ビデオで隊員の二谷さんと伊藤さんのメッセージを聞いた。



野口英世 百華の書

### 児童の感想より

野口英世が、手漕ぎ船でアクラに上陸していた写真が印象に残っています。日本から「忍耐」の心を持って行って、すごいと思いました。

自分は、将来外国で働くことは考えてないけど、石川さんと二谷さんと伊藤さんを見ていたら、外国の人のために働くものいいかなって思いました。

## 5 時 限 目 ガーナから学ぼう

ここでは、ガーナの現状についても知ってほしいと考え、児童の身近な存在であるノートを取り上げ、自分たちの生活を見つめ直した。

まず、ガーナの小学生が学校で使っている黒板とノートを提示した。黒板やノートは、昨年度研修に行かれた先生からお借りして、全員が手に持って触れることができるようにした。そして、児童がいつも使っているノートと比較して、気づいたことを発表した。児童は、ノートの紙質が良くないこと、ガーナは物質的には恵まれていないことなどを感じ取っていた。次に、もしも自分がガーナでノートを使うとしたらどのように使うかを想像し、ワークシートに書いて発表した。

次に、ガーナの子どもたちは、不幸せなのだろうかと問いかけた。すると、ほとんどの児童が「幸せだと思う」と答えた。理由を尋ねると、「今までの学習で見た写真の人たちがみんな笑顔だったから」という答えが返ってきた。そこで、ガーナで撮ってきた笑顔の写真を提示しながら、ガーナ人の笑顔のひみつについて予想して、グループで考えを交流し合った。

最後に、自分たちにできることは何かを考えて、ワークシートに書いた。